

壁紙のメンテナンス

輸入特殊壁紙（ペーパーウィーブ）

■ 壁紙の一般注意事項

入居後の換気

施工時の臭いが残る場合がありますので入居後（施設利用開始後）、一週間程度は十分に換気を行ってください。

直射日光からの保護

直射日光が長時間当たる場所では変色や退色するおそれがあります。カーテンやガラスフィルムなどで、日除けをおすすめします。

タバコの煙・キッチンの油煙

タバコの煙やキッチンの油煙などは壁紙を黄変させ、汚れがとれなくなることがあります。室内の換気を十分にを行い、定期的な清掃を行うことをおすすめします。

薬品や化粧品類

スプレー式の薬品（殺虫剤・塗料 等）・化粧品を壁紙に付着させないでください。また、傷薬などの医薬品や口紅なども付着させないでください。種類によっては付着した色が落ちなくなったり壁紙が変色したりすることがあります。

家具の設置

家具の塗料やベニヤに含まれる色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙の間は空間の余裕をとってください。変色だけでなく結露やかび発生の防止にもなります。

暖房設備・空調設備まわり

ストーブなどの暖房設備の熱風が壁紙に直接当たらないように注意してください。変色のおそれがあります。エアコン・換気扇について、風が当たる箇所や機器周り等は汚れが集中しやすく、こまめにハタキ掛けや拭き掃除等をおすすめします。

静電気

家電製品（冷蔵庫、テレビ、電子レンジなど）と壁紙は、空間の余裕をとってください。静電気により埃が付着しやすくなり、壁紙が汚れる原因となります。

粘着テープ

粘着テープ（セロハンテープ、ガムテープ、シールなど）を壁紙に貼ると、テープの粘着剤が壁紙に移行し変色や汚れの原因となります。特にゴム系粘着剤は変色が起こりやすいためご注意ください。また粘着テープを剥がすときに壁紙を破損する恐れがあります。

壁紙のメンテナンス

輸入特殊壁紙（ペーパーウィーブ）

衝撃・摩擦

壁紙に過度な衝撃や摩擦等を加えた場合、キズや破れが発生する場合があります。

変色

壁紙は単体で変色することはありません。変色する場合にはなんらか外部環境の影響を受けており、メンテナンスで変色部分を取り除くことが困難な場合があります。

■ 日常のメンテナンス

ホコリや塵等は帯びている静電気により壁に付着する性質があります。こまめにハタキ掛けや乾いた布等での拭き取りをおすすめします。表面の凹凸にホコリがたまりやすく、放置するとホコリが湿気を吸い取りかび発生の原因にもなりますので、ご注意ください

長年、蓄積した汚れは落とすことが難しいため、定期的に拭き掃除をお願いします。

■ 汚れが付着した場合

濡れたぞうきんや洗剤でふき取るとシミの原因に成りますので、乾式の柔らかいぞうきんで軽くふき取りをお奨めいたします。

換気栓やエアコンの周りのほこりや塵に関しては、家庭用電気掃除機をカーペット用ノズルにて、汚れを吸い取って頂く事をお奨めいたします。

■ かびについて

かびは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーやぜんそくなど、病気の原因になることがありますので注意が必要です。

かびを防ぐ

かびの発生は建物の構造や環境に大きく影響を受けます。十分に換気を行い、風通しをよくして、湿度の上昇を抑えてください。

かびが発生した場合

かびが壁紙表面だけに発生している場合、早めに消毒用アルコールで拭き取るのが効果的です。（壁紙の種類によっては表面が損傷する場合がありますので、目立たないところで試してからご使用ください。）

尚、壁紙内部に達している場合や大量に発生してしまった場合は落とすことが困難です。専門業者に相談することをおすすめします。

壁紙のメンテナンス

輸入特殊壁紙（ペーパーウィーブ）

■ 結露の防止について

結露や過度の湿気は、シミ・剥がれ・かび発生の原因となりますので室内の換気や湿度調整を心がけてください。

換気・除湿

常に換気を心がけて、暖房器具などから発生する水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や料理時の水蒸気などにはご注意ください。除湿器や吸湿材などの活用も有効です。

通気

家具裏などの隙間に余裕を取り、建物全体の空気の流れをよくするようにしてください。

冬の結露について

冬場は室内と外気に気温差が大きく、結露が発生しやすい時期です。また加湿器を使用した後などは特に発生しやすくなります。こまめな換気や除湿を心がけてください。

■ 除菌について

アルコール系の除菌・消毒剤についてはシミになるため、使用できません。

■ 剥がれてきた壁紙のメンテナンス

部分的な剥がれであれば、剥がれが広がる前にゴミや埃を取り除いた後、壁紙の裏に文具用の糊や木工用ボンドをはみ出さないように塗布して、十分に圧着してください。剥がれてから時間が経ったものや、劣化して硬くなったものは補修が困難です。貼り替えをおすすめします。

■ その他

日頃からメンテナンスを行いながら、使用状況に応じて5～10年を目安に貼り替えを、おすすめします。